

## 後期高齢者医療 コロナ影響で受診抑制あり、剰余金 26 億円に達する

広域連合議会で、東芝議員（かつらぎ町）の質疑で明らかに

東芝議員 「来年の保険料引き下げの検討も視野に入る」と迫る

7月27日(火)、和歌山県後期高齢者医療広域連合議会が開催されました、令和2年度の決算、令和3年度補正予算案などが議題とされました。

東芝議員（かつらぎ町）の質疑を通して明らかになったことは、令和2年度の医療費給付がコロナによる受診抑制によって、保険料値上げを決定した際の想定を大きく下回った事です。令和2年度末で、準備基金（剰余金）は26億円に達しました。東芝議員によ



ると、過去に一度だけ保険料を下げたことがあったが準備基金はその時を凌いでいるということです。来年度の保険料の値下げの検討ーは視野に入るのではないかと連合長にただしました。連合長は段階の世代が被保険者として増える時期を迎えていることなどをあげて慎重な姿勢を崩しませんでした。事務局長は、剰余金は全額投入する予定であること、基金残高はさらに多くなる見込みであることなどをあげ、保険料率の上昇は抑えられると答弁しました。

### ★請願 「保険料の軽減」「75歳以上の医療費窓口負担の2割化実施の凍結」は否決

県社保協が提出していた請願（保険料の軽減を求める請願、75歳以上の医療費窓口負担2割化実施の凍結を求める請願）は賛成議員3人（かつらぎ町、高野町、那智勝浦町）でした。

紹介議員の東芝議員（かつらぎ町）は、決算状況からも保険料引き下げは可能であること、日本医師会も指摘しているように高齢者の医療費負担はすでに十分重くなっており、これ以上の自己負担増は受診抑制につながる、いのちに直結する問題であると訴えました。県社保協からは4人が傍聴参加しました。

（議会で明らかになった数字）

- 人間ドック実施市町村 令和2年度17(元年度18)
- コロナによる保険料特例減免 令和2年度173件 令和元年度155件
- 特別徴収者(年金からの年引き)123,367人 普通徴収者47,082人
- 保険料軽減被保険者数（7割、7.5割、5割、2割、被扶養者）134,650人（全被保険者の79%）

### 後期高齢者医療広域連合への要請のご案内

◆8月5日(木)午前11時 日赤会館102号会議室にて

※議会での審議を受けて、保険料の引き下げなど要請します。

参加を希望される方は事前にご連絡をください。

TEL 073-425-9355 まで